

# 岩手医科大学報

Iwate Medical University News

2011・12 vol.423

●発行者—学長 小川 彰 ●題字—理事長 大淵 勉

## 救援物資、震災募金への御礼

この度の東日本大地震・大津波大災害に際しましては、多くの皆様から救援物資並びに募金をお寄せいただいています。皆様からの温かいご支援に対し心より御礼申し上げます。



ドクターヘリ基地（ヘリポート・格納庫）建設工事起工式

〈写真撮影：画像情報センター、12月1日※ 関連記事P5〉

### おもな内容

- 特集 附属花巻温泉病院のご紹介
- 岩手医科大学附属病院移転事業の進捗状況
- トピックス 本学と岩手生物工学研究センターの包括連携協定締結記念シンポジウムが開催されました
- フリーページ すこやかスポット医学講座 No.32 片頭痛—意外と知られていない「本当のところ」—  
内科学講座（神経内科・老年科分野）講師 上藤 雅子



# 附属花巻温泉病院のご紹介



附属花巻温泉病院

病院長 猪又義男

国立療養所花巻温泉病院の統廃合により、これを本学が委譲を受け、平成5年7月に岩手医科大学附属花巻温泉病院として開院しました。地域の皆様に良質な医療を安全に、真心を込めて提供するという当院の基本理念をモットーに、地域の一般医療および2次救急医療を中心に地域社会への医療サービスに貢献しています。基本方針として患者さん本位の医療を根拠に基づき実践し、地域に密着した医療機関としての役割を果たし、本院と緊密な連携を保ちながら診療に当たり、医学研究機関、医学生教育機関としての役割を担っています。また、当院は岩手県立自然公園の中に位置し、すばらしい自然環境の中で入院生活を送ることができます。



紅葉時期の病院周辺



釜淵の滝



緒ヶ瀬滝

## ◆豊富な診療科で地域医療を推進

内科一般・外科・神経内科・整形外科・麻酔科・リハビリテーション科など、9科の診療科を標榜し、地域医療の担い手として花巻のみならず、周辺エリアの一般医療はもとより、2次救急医療にも対応しています。

当院各科専門医の診療の主な特徴は、内科は上部下部消化管の内視鏡、肝・胆道系疾患の治療、糖尿病代謝内科は糖尿病教育・治療、循環器内科は心・高血圧疾患の治療、神経内科はALS患者の呼吸・全身管理、脳疾患急性期・変性疾患のリハビリを含めた治療を行っています。外科はほとんどの消化器疾患に対して、高度な内視鏡手術を行っています。整形外科は股関節疾患の関節温存手術、関節外科、小児整形外科の治療を行っています。麻酔科医が常勤しているので手術をより安全に実施できます。薬剤部では抗がん剤の調剤件数の増加に伴い、被爆を避ける安全キャビネットを併設した調剤室を設置しています。

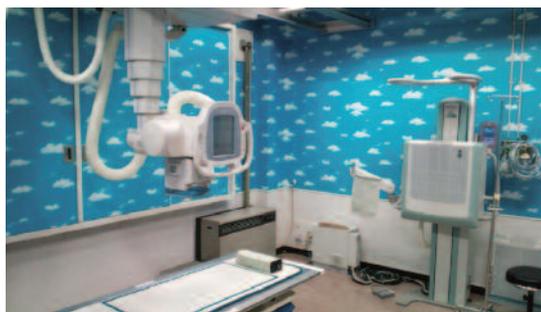
標 榜 診 療 科 名		
内 科	消化器内科	神経内科
老年内科	外 科	整形外科
リウマチ科	リハビリテーション科	麻 酔 科

承 認 基 準 等	
労災保険指定医療機関	生活保護指定医療機関
更生医療指定医療機関	感染予防法指定医療機関
育成医療指定医療機関	救急告示医療機関
基本診療料施設基準	特掲診療料施設基準届出施設

## ◆本院との密接な連携

本院と密接な連携の下に安心して信頼のできる医療を行っています。本院循環器科、神経内科と整形外科病棟からリハビリ目的の患者さんを受け入れています。さらに、他の医療機関から多くの紹介患者さんを受け入れており、相互に連携しています。最新の全身用コンピューター断層撮影装置（16チャンネル）、MRI、超音波診断装置（エコーカメラ）、電子内視鏡システム（最新経鼻内視鏡を設備）、外科用イメージなどを整備しています。

## ◆放射線部の機能



X線撮影室は壁全周を青空色に施し、従来の撮影室のイメージを一新しました。少しでも患者さんの精神的負担の軽減につながればというコンセプトで改装しました。また、医療用画像情報システム（PACS）の運用により、各モダリティからのデータをサーバーに転送、院内各科診察室、病棟や手術室の画像端末からアクセスが可能となりました。さらに、本院放射線科との遠隔読影システムの運用により診療情報の一元化の一翼を担っています。

## ◆温水プールなどリハビリ施設の充実

リハビリテーション科においては患者さんの早期治療・早期回復のために、180平方メートルを超える広さの機能訓練室を有しています。また、泉温75度の源泉で、泉質が弱アルカリ性、PH8.1の温泉を利用した、ニューヨーク大学・ラスク元教授の思想に準じて設計された長さ20m、幅12mの温水プールがあります。深さは110cm～130cmの3段階に分かれており、患者さんの病態に合わせた運動浴が可能です。さらにリフトを設置し、車イスの患者さんの介助歩行も行っています。当院の温泉リハビリ治療は次の患者さんを対象に行っています。



- 1) 整形外科疾患の術前、術後のリハビリを総合的に行っています。
- 2) 糖尿病の水中体重管理に利用しています。
- 3) 重症の消化器疾患、脊髄損傷、重度関節リウマチのために温泉水を利用したハーバード浴を行っています。

## ◆身障者用駐車スペースの増設



歩行困難など障害のある方に身障者用駐車スペースが病院玄関前に2台分ありましたが、需要には十分に答えられない状況でした。

そこで、身障者用スペースを増設し、計5台分を整備しました。同時に「ひとにやさしい駐車場利用証制度」を岩手県と締結し、身障者の方が支障なく利用できるよう患者アメニティーの向上に努めております。

## ◆東日本大地震・大津波大災害の対応

いわて花巻空港（災害拠点空港）に被災地から空路搬送された被災者を直接受け入れ、病院の総力を挙げて治療に当たりました。その後も避難所に避難してきた方の治療を積極的に行っています。現在でも医師会と連携し、大槌病院に応援医師を派遣しています。

地震により当院は温水プール、建屋の一部が被災し、復旧までに2カ月ほどかかりました。

## ◆今後の展望

基本理念に基づき、地域の皆様に各科の持つ専門性を生かした質の高い真心のこもった安心安全な医療を提供し、病病・病診連携そして介護の連携機能を円滑に進め、確実な財政基盤を維持しながら、信頼される医療機関のあるべき姿を常に求めていくことにあると考えています。

# 岩手医科大学附属病院移転事業の進捗状況

## 附属病院移転用地第一工区の造成工事が完了しました

本年1月に取得した附属病院移転用地（C敷地）は、10月31日(月)に第一工区の造成工事が完了しました。

第二工区の造成工事は一時休工となりますが、今後の病院移転計画の進捗により再開し、平成25年3月までの工事完了を予定しています。

広大な移転用地を囲む外壁看板には、「がんばろう！東北」、「がんばろう！岩手」のメッセージとともに本学の事業名が大きく掲げられています。



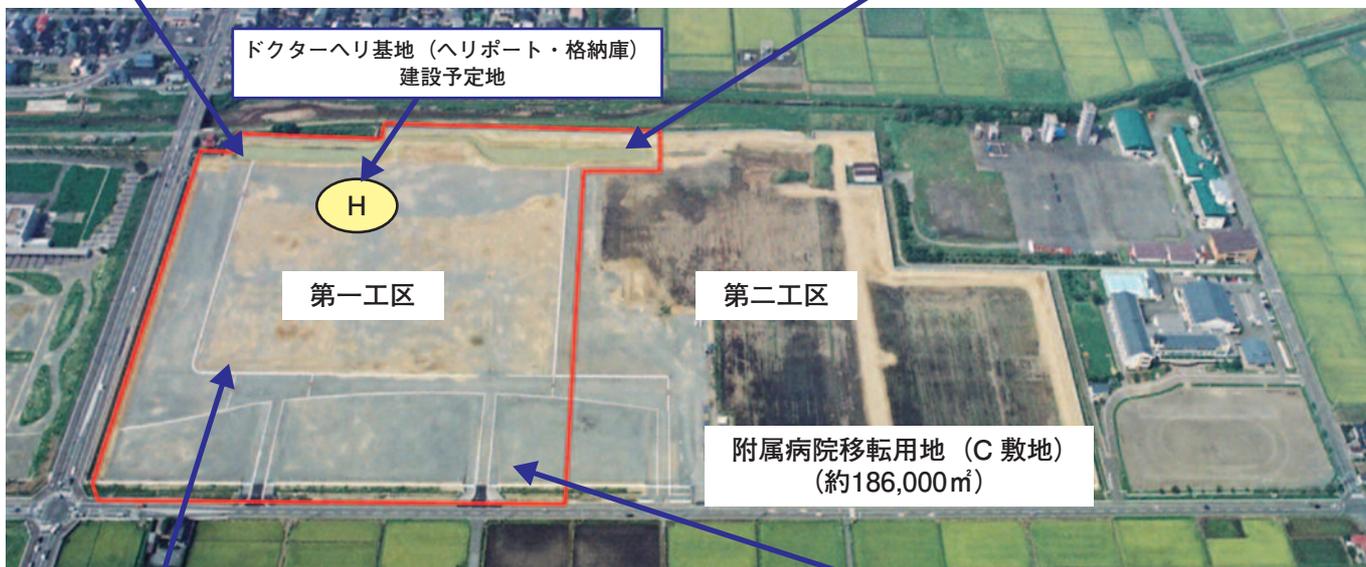
## 附属病院移転用地（C敷地）の現況写真（平成23年10月撮影）



調整池南側



調整池北側



場内排水路付近



北東角地付近

## ドクターヘリ基地（ヘリポート・格納庫）の建設工事に着工しました

本学は、岩手県からドクターヘリ導入促進事業の運用を委託され、かねてから準備を進めてきましたが、附属病院移転用地第一工区の造成工事完了に伴い、12月からドクターヘリ基地（ヘリポート・格納庫）の建設工事が着工の運びとなりました。

12月1日(木)午前11時から、建設予定地で起工式が執り行われ、本学関係者や岩手県、矢巾町、工事関係者等約70名が出席し、工事の無事を祈願しました。

本施設は平成23年度中の竣工を予定しており、平成24年度からの運航開始に向けて関係機関との調整を進めています。ドクターヘリの導入により救急患者の迅速な広域搬送が可能となり、救命率の向上が期待されます。

※ドクターヘリの導入概要については、大学報422号に掲載されていますのでご参照ください。

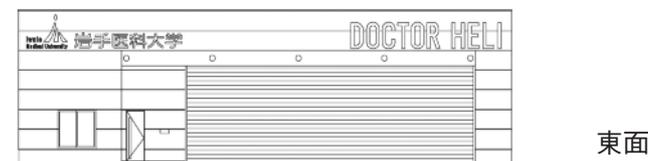


玉串を捧げ安全を祈願する小川学長



岩手県知事（代読：小田島岩手県保健福祉部長）からの祝辞

### 格納庫立面図

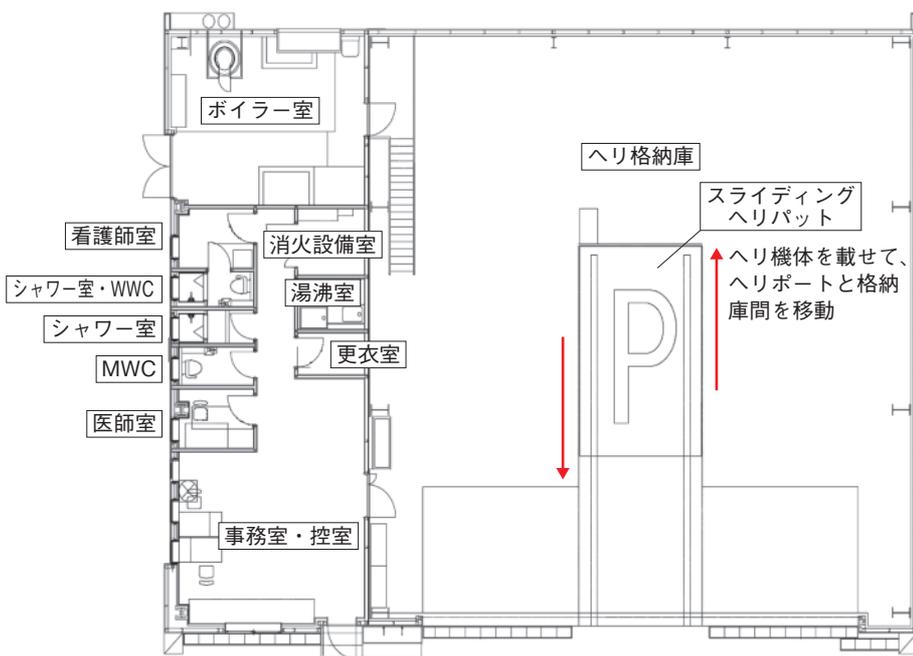


東面



南面

### 格納庫平面図



#### 【建設工事概要】

階数：地上1階  
用途：格納庫ほか  
敷地面積：186,394.35㎡（56,384.29坪）  
建築面積：223,423.54㎡（67,128.12坪）  
延床面積：223,430.96㎡（67,130.37坪）

## 秋の医療安全講習会が行われました

秋の医療安全対策講習会が、11月1日(火)から7日間にわたり歯学部棟4階講堂において行われました。(初日以外は録画映像による講習会)

今回は、日本アンガーマネジメント協会代表理事の安藤 俊介先生(右写真)を講師に迎えて「怒りを科学するアンガーマネジメント」と題した講演が行われ、総勢約2,000名が参加しました。

アンガーマネジメントとは、1970年代にアメリカで始まったアンガー(イライラ、怒りの感情)をマネジメントする(上手に付き合う)ための心理技術のことで、講演では職場環境や私生活で起こりうる具体的な事例を交えたお話があり、参加者の中にはメモを取る姿も見られるなど、皆熱心に聞き入っている様子でした。



## 本学と岩手生物工学研究センターの包括連携協定締結記念シンポジウムが開催されました

11月7日(月)、エスポワールいわてにおいて、本学と岩手生物工学研究センターとの包括連携協定締結記念シンポジウムが開催されました。

このシンポジウムは、本年9月22日付で締結した包括連携協定を記念して行われたもので、祖父江 憲治副学長による「魚油 (Fish Oil) によるいわて活性化」と題した基調講演で幕を開け、本学内科学講座(心血管・腎・内分泌内科分野)の佐藤 衛特任准教授をはじめとした演者による記念講演やパネルディスカッションが行われました。

会場には、水産業や医療分野の関係者らが来場し、三陸沿岸部の復興に向けて様々な意見が交わされました。



## 第44回動物慰霊祭が行われました

第44回動物慰霊祭が、11月14日(月)午後4時30分から矢巾キャンパス大堀記念講堂において、小川学長をはじめとする本学関係者約100名のほか、医学部・歯学部・薬学部の学生約150名が参列して厳かに執り行われました。

式では、昨年度実験に供された動物8558霊に対する黙祷の後、遠山稿二郎動物研究センター長及び学生を代表して医学部5年の後藤志保さんから慰霊のことが捧げられました。続いて、参列者による献花(写真右)が行われ、医学・歯学・薬学の教育・研究に貢献した実験動物の御霊に対して感謝するとともに霊の安らかならんことを祈りました。



## ● 理事会報告 ●

### ■10月定例(10月31日開催)

- 組織規程及び組織機構図の一部改正について
  - 診療科名称の変更  
(変更前)耳鼻咽喉科 → (変更後)耳鼻咽喉科・頭頸部外科
  - 総合周産期母子医療センターの設置  
(施行年月日 平成23年11月1日)
- 寄附講座設置に係る組織機構図の一部改正について  
医学部に災害医学講座を設置

### <設置目的>

- (1)東日本大地震・大津波大災害における災害対応の問題点の検証
  - (2)緊急時における行政、大学、医療機関等との迅速な連携構築
  - (3)災害後の長期的な医療支援
- ※設置期間は、平成23年9月1日から平成26年3月31日まで  
(施行年月日 平成23年10月1日)
3. ドクターヘリポート基地建設業者の選定について  
選定業者: (株)清水建設

# 省エネ推進委員会だより

～冬の節電対策について～

東日本大地震・大津波大災害における電力不足は当面は続くと予測され、この冬も節電を行なっていく必要があります。そこで今回は、冬の節電対策「ウォームビズ」をご紹介します。ウォームビズとは、寒いときには着る、過度に暖房機器に頼らないという原点に立返り室温20℃でも快適なスタイルをいいます。

## ウォームビズが推進する衣・食・住の取組み

### ●衣 類



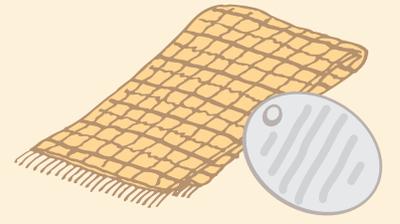
**首・手首・足首「3つの首」をあたためる**  
マフラー・手袋・レッグウォーマーを活用して、太い血管のある部分を重点的にあたためることでからだ全体があたたまります。

### ●食 べ 物



**鍋でからだも室内もあたためる**  
家族や友達とあたたかい鍋を楽しみましょう。鍋の湯気は加湿効果もあって体感温度も上がります。また根菜類、生姜などは、からだを内側からあたためる効果があります。

### ●住 ま い



**道具や小物で暖房に頼り過ぎない工夫**  
湯たんぽや毛足の長い座布団、ひざ掛けなどを効果的に活用しましょう。

この他にもあたたかく過ごす工夫について、チャレンジ25キャンペーン HP にある「ウォームビズ」特設サイトでも紹介していますので、是非ご覧になって下さい。

チャレンジ25キャンペーン HP <http://www.challenge25.go.jp/>



参考資料：チャレンジ25キャンペーン「WARMBIZ」

## 冬晴れの青空を飛ぶ タカの仲間

浅田次郎さんの壬生義士伝で主人公の吉村貫一郎は「南部盛岡は日本一の美しい国でござんす。西に岩手山がそびえ、東には早池峰。北には姫神山。城下を流れる中津川は北上川に合わさって豊かな流れになり申す。春には花が咲き乱れ、夏は緑、秋には紅葉。冬ともなりゃあ、真綿のごとき雪こに、すっぱりとくるまれるのでござんす。」と語りました。

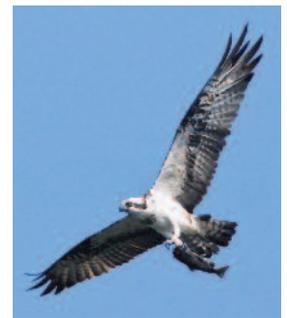
この美しい山と川の国、岩手には多種多様な野鳥が生息しています。岩手県内陸地方では冬晴れの日が多いので、年末年始のお休みは野鳥の観察に好適です。もし幸運にも猛禽類が観察できたら、それは初夢の縁起物「一富士、二鷹、三茄子」の鷹に違いありません！きっと幸運な年を迎える事が出来そうですよ。

御所ダムから少し下流の雫石川では豪快な漁をするミサゴを見ることが出来ます。ミサゴは三陸海岸のような海辺に多く生息していますが、市内の河川にも生息しています。冬晴れの青空、獲物の魚を掴んで優雅に飛ぶ姿を探してみてください。全長54—

64cm。翼開長150—180cm。

早池峰を戴く北上高地はイヌワシやクマタカのような絶滅危惧種の貴重な猛禽類が多く生息することが知られています。中津川上流の綱取ダム付近で時々クマタカが飛んでいるのを見かけます。クマタカは森林生態系の頂点に位置しているため「森の王者」とも呼ばれます。晴天の上昇気流をとらえて滑空する勇猛な姿は圧倒的な迫力です。全長約80cm。翼開長は約170cm。

なお野鳥の観察には8倍30mm程度の双眼鏡、撮影にはデジタル一眼レフと300mm以上の望遠レンズが適しています。また真冬の岩手での野鳥観察には十分な防寒装備でお出かけ下さい。  
(文と写真：編集委員 佐藤 仁)



ミサゴ



クマタカ

# 岩手医科大学募金状況報告

## ● 総合移転整備事業募金

～ 皆様のご厚志により支えられています ～

平成21年6月から始めました岩手医科大学総合移転整備事業募金に対し、格別のご理解とご支援を賜りました皆様方お一人おひとりに、厚く御礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

皆様のご厚志は、大学発展の大きな原動力となるものであり、本事業の早期達成のため有効に活用させていただいております。

今後とも関係各方面からの格別なるご協力・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

**今回は12回目の御芳名紹介です。(平成23年8月1日～平成23年10月31日)**

※御芳名及び寄付金額は、掲載を希望されない方については掲載しておりません。

### 会社・法人等

<50,000,000円>

株式会社こずかたサービス(盛岡市)

<御芳名のみ記載>

有限会社 川七 (盛岡市)  
医療法人社団はやしくリニック (東京都)  
(受付順、敬称略)

### 個人

<500,000円>

島田 克己(医23)

<300,000円>

岩手医科大学医学部10期生一同

<100,000円>

関 隆(教職員)

<御芳名のみ記載>

猪股 正秋(医34)

(受付順、敬称略)

### これまでの募金累計額

区分	申込件数	募金金額(円)
圭陵会	431	244,472,000
在学生ご父母	179	80,540,000
役員・名誉教授	40	67,460,000
教職員	101	14,395,000
在学生	1	100,000
一般	94	289,782,922
合計	846	696,749,922

(平成23年10月31日現在)

## 岩手医科大学 震災募金のご案内

東日本大地震・大津波大災害に際し、被災により学業継続が難しい学生に対する経済的支援や今後単年で続くことが予想される被災地への地域医療支援のための資金、大学の教育施設の被災復興を目的として、岩手医科大学震災募金活動を行っております。皆様からのご協力をいただきますようお願い申し上げます。

なお、手続き方法等については企画部企画課 支援受付担当までお問い合わせください。

<お問い合わせ先>

岩手医科大学企画部企画課 支援受付担当

〒020-8505 岩手県盛岡市内丸19-1

TEL 019-651-5111 (内線 7022・7023)

FAX 019-624-1231

E-mail : [kikaku@j.iwate-med.ac.jp](mailto:kikaku@j.iwate-med.ac.jp)



### これまでの募金累計額

区分	申込件数	募金金額(円)
圭陵会	12	6,350,183
在学生ご父母	6	2,500,000
名誉教授	1	100,000
教職員	22	2,405,000
一般	92	16,213,549
合計	133	27,568,732

(平成23年11月16日現在)

## 岩手医科大学防災マニュアルの改訂

防災委員会からのお知らせ

岩手医科大学防災委員会は、この度「岩手医科大学防災マニュアル(内丸地区)」の改訂版を発行しました。

改訂版では、3月11日(金)に発生した東日本大地震・大津波大災害の教訓を生かし、災害発生時における本学の災害対応体制について全般的な見直しを行いました。

職員の皆様におかれましては、本マニュアルを活用し災害発生時における役割・対応について再確認していただきますようお願いいたします。

※防災マニュアルは、すでに各部署へ配布していますが、学内限定情報ホームページ(【学内限定】→【学内通知】→【総務部庶務課】)でもご覧いただけます。



看護部 (東6階)

東6階脳神経外科病棟のスタッフは、看護師34名と看護補助1名、クラーク1名です。患者さんは、脳血管障害や脳腫瘍・脊髄疾患・神経難病(パーキンソン病)などの疾患で、手術療法・化学療法・放射線療法を目的に入院されます。急性



期から慢性期・終末期の全ての過程にある、幼児から高齢者までの幅広い年齢層の患者さんが看護の対象です。脳の疾患は、人間の基本的ニーズや生命維持に関する機能に障害が生じることが多く、意識障害・運動障害・言語障害などを引き起こします。看護師は、突然の入院や障害による患者さんの心理状態に思いを寄せ、「安全・安楽・安心」の看護を提供できるように、やさしさと倫理観を持った対応を心掛けています。また、家族を第2の患者さんと捉え、様々な意思決定時の場面において擁護者となれるように、家族看護の視点での学びを深めるように取り組んでいます。

(看護師長 川崎 明美)

矢巾キャンパス共通教育・総務課

当課の業務は、共通教育・総務・研究助成・図書と4つの係に大別されます。

共通教育は、共通教育センターの運営に関する業務、3学部第1学年の学事全般に関する業務、市民公開講座の実施、海外外国語研修の実施、入学試験補助業務など多岐に亘っています。中でも、現在、共通教育センターでは新入生の「基礎学力向上」と「専門教育への橋渡し」を図るべく「初年次教育の充実」に力を入れており、我々事務員も企画・運営に携わっています。

総務は、券売機収入や小口現金の出納管理、郵便物の出荷や仕分、キャンパス駐車場の管理、施設の防火・防災を含む全般管理、最近ではキャンパス見学の対応が増えています。この他、他課に属さない業務の窓口になるなど、幅広く日々の業務に対応しています。

研究助成は、内丸の研究助成課と連携し、学内研究費・公的研究費の管理、内丸との各種研究関

連テレビ会議の運営を行っています。

図書係がいる図書館分館は、事務室のある本部棟から離れた食堂棟2Fにあります。教育・研究支援の中でも、毎回テーマを変えた企画展示や、初年次教育としての図書館実習に力を入れています。一般市民の方々にも開放し、地域貢献の一役を担っております。「また利用したい図書館」をコンセプトに日々研鑽に努めております。

(課長 赤坂 昇治)



# すこやか スポーツ医学講座 No. 32

内科学講座 神経内科・老年科分野  
講師 工藤 雅子



## 片頭痛 —意外と知られていない「本当のところ」—

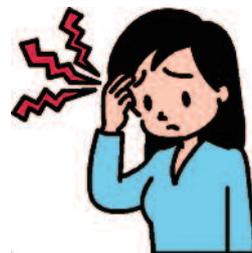
長年頭痛発作に苦しんできた片頭痛の患者さんが「以前にも病院に行ったのですが、ただの片頭痛なので特にやることはありませんと言われました」と話されることがいまだにあります。片頭痛は患者さんの日常生活に影響を及ぼす厄介な病気ですがその実際については意外に知られていないようです。ここでは「本当の片頭痛」についてご紹介したいと思います。

片頭痛は、女性に多い（男性の3～4倍）病気です。発症年齢は90%以上が40歳以下で、小児の発症も珍しくありません。遺伝の関与が知られており、母親が片頭痛である場合子供が片頭痛になる確率は5割以上と言われています。最も大事なものは、「発作を起こす病気である」ということです。つまり頭痛発作が起きているとき以外は患者さんに症状は無いわけで、24時間365日頭が痛い、という人は片頭痛ではありません。また、「片頭痛」という病名から、片側の痛みでなければ片頭痛ではないと思われがちですが実際には全体の4割が両側性です。

発作の誘発因子は様々で、ストレスから解放された時や逆にストレスがかかったとき、疲労や月経な

どがあげられます。また、頭痛発作に伴う症状として光過敏（眩しい光が気になる）、音過敏（うるさい音が気になる）、匂い過敏や悪心、嘔吐などがありこれらを随伴症状と呼びます。頭痛発作は中程度以上で、動くときひどくなるので患者さんは暗い静かな部屋でじっとしていなければいけません。

このように、患者さんの日常生活を妨げる片頭痛ですが、病院への受診率はとても低いことも知られており、これは「頭痛なんかで病院に行っては申し訳ない」「どうせわかってももらえない」という患者さんの気持ちもあるようです。現在では、市販薬で改善しない痛みや随伴症状も改善できる治療薬があり、つらい生活を一変させることができます。「ただの片頭痛」なんてありません。頭痛でお悩みの方は遠慮しないで専門医に相談しましょう。そして、家族や友人、医療関係者はまず片頭痛の「本当のところ」を知り患者さんのつらさを理解してあげることが大切です。



### 第92回大学報編集委員会

日 時：平成23年12月15日(木) 午後4時～午後5時

出席委員：山崎 健、影山 雄太、松政 正俊、齋野 朝幸、藤本 康之、小山 薫、佐藤 仁、下山 佑、佐々木 光政、  
佐々木 さき子、赤松 順子、中島 久雄、武藤 千恵子、野里 三津子、山尾 寿子

編集後記

東日本大地震・大津波大災害の2011年（平成23年）がまもなく暮れようとしています。被災された方々には心よりお見舞い申し上げます。私たちは岩手医科大学の一員として「3・11」の事を決して忘れることなく、復興への道程を歩んで行かなければなりません。岩手医科大学報が私たちの「絆」を深めるお役に立てればと願っております。今後ともご指導とご支援のほどよろしくお願いいたします。（編集委員 佐藤 仁）

### 岩手医科大学報 第423号

発行年月日 平成23年12月28日  
編集 岩手医科大学報編集委員会  
事務局 企画部 企画課  
盛岡市内丸19-1  
TEL 019-651-5111 (内線7022)  
FAX 019-624-1231  
E-mail:kikaku@j.iwate-med.ac.jp

印刷 河北印刷(株) 盛岡市本町通2-8-7  
TEL 019-623-4256  
E-mail:office@kahoku-ipm.jp